

古資料は、竈の焚口に取り付けられる部品
 であることが韓国内の発掘によって明らか
 となった。韓国内では、もとの百濟地方を
 中心に分布することが判明してきており、
 日本国内では、2の例を除いて大阪府内の
 5世紀代の遺跡から出土している。

5. 日本の建築史の研究者によって、大壁造
 りと命名された、古墳時代を中心とする住
 居様式も韓国からの渡来民によってもたら
 されたものである。ただ大壁造りという建
 築用語は、日本の近世以降の住宅建築様式
 にも使用されており、両者に共通する建築
 上の特徴と大きく異なる特徴もあることを
 認識することが重要である。

6. 以前から知られた考古資料で6世紀代の
 横穴式石室墳に副葬される竈形明器は、1969
 年に発表された水野正好氏の論文によって
 渡来氏族の葬制と密接な関係にあることが
 確定になった。その後、各地で後期古墳の
 発掘が進むなかで、近畿地方のなかでも、

滋賀県大津北郊、大阪府の中・南河内、奈
 良県の盆地南部に濃い密度で、周辺部の地
 域でまばらに分布していることが明らかと
 なってきた。韓国での出土例は未だ僅かで、
 韓国の考古学研究者の中には、日本から韓
 国にもたらされた習俗と考える人もあるや
 に聞くが、私は明器副葬の思想は元々日本
 には無く、中国を源流として、変容しなが
 ら朝鮮半島、日本へと伝来したものと考之
 ている。今後の出土例の増加を待ちたい。

7. 上と同じく、現在のところ日本に多くの
 出土例があり、韓国ではごく最近になって
 出土しはじめた考古資料に下駄がある。40
 数年前、私も参加していた大津市の遺跡発
 掘現場では6世紀以降の下駄が沢山出土し
 た。当時、調査チームでは下駄は渡来民と
 関係すると考えたが、韓国での発掘資料は
 知られていなかった。一昨年の秋、韓国を
 訪問した際、たまたま韓国の友人が案内し
 てくれた博物館で、5世紀代の遺跡から発